

日本教育方法学会第48回大会（福井大学）

2012年10月7日(日) 9:30～10:00 会場：104講義室

メディアリテラシーを基盤とした教育方法の再構築 －テレビ番組、PR、ゲームニクス等の手法を取り入れた授業実践開発－

藤川 大祐（千葉大学）

Twitter: @daisukef

※本スライド資料は藤川ブログにpdf形式で掲載しています。
「藤川大祐」で検索してご覧ください。

日本におけるメディアリテラシー研究の蓄積

1970年代、カナダにおけるメディアリテラシーの発展と各国への普及

メディアを批判的に受容する（ステレオタイプ、商業性等）

1990年代、日本におけるテレビへの批判とメディアリテラシーへの注目

オウム真理教報道、「やらせ」や「偏向」、ポケモンショック等

市民運動としてのメディアリテラシー研究から学校教育へ

FCTメディア・リテラシー研究所、MELLプロジェクト、メディアリテラシー教育研究会等 テレビ局や総務省がメディアリテラシー啓発に寄与

インターネットの普及、情報モラル教育とのかかわり

「出会い」問題、「ネット上のいじめ」、ケータイ依存等が問題に
国語、社会科、総合的な学習の時間等での扱い

メディアリテラシー関連の教育内容の充実（例）

国語科：「非連続テキスト」（写真、図表等）、パンフレット作成、インタビュー、情報社会の諸問題に関わる説明的文章

社会科：メディア関連産業、報道被害

家庭科：ネットショッピング等の消費者教育

健康教育：ダイエット食品、メディア依存

道徳：メールのマナー、著作権や肖像権の尊重

 **メディアリテラシー関連の成果の教育方法への活用は不十分、未整理**

教育方法への活用の可能性の検討

今回の発表では、デジタル教材の活用に関わる議論には触れないこととします。

NHK Eテレ（教育テレビ）の番組で扱ったテーマから

【体験！メディアのABC】（2001年度制作）

#4 インタビューと記事 → 教師と子どもとのやりとり

#6 タイトルとキャッチコピー → 活動内容等に的確にタイトルをつける

【10min.ボックス 情報・メディア】（2007年度制作）

#16 ゲームを作る → 子どもの活動を中心とした授業のデザイン

#18 デザインで情報を伝える → わかりやすい教材をつくる

#19 マスメディアを利用して情報を伝える～PR～ → 子どもと授業との良好な関係を構築する

【伝える極意】（2008年度制作）

#1 お礼状 → 推敲を重視した作文の指導

#4 朗読 → 教師の話し方

#8 クイズ → 思考を促す発問のあり方

【メディアのめ】（2012年度制作）

#6 統計・グラフ～数字の演出～ → 授業における統計資料の活用

#10 気持ちを動かす！CMのヒミツ → 子どもの感情を動かす授業の工夫

#13 構成～番組の「設計図」を作る → わかりやすい授業の構成

 **メディアの技法を教育方法で活用することが、多様に検討されうる**

越境型カンファレンスの取り組み

越境型カンファレンスとは

多様な背景をもつ数十名規模の公開研究会で、ゲスト講師の話を聴いた上で、**質疑応答・ディスカッションの時間を多くとり**、それぞれの現場での活用の可能性について論議するもの。たとえば、ゲスト講師の話80分、質疑応答・ディスカッション90分で構成し、終了後には**懇親会**を行う。講演会型より双方向のコミュニケーションが多いが、ワークショップ型よりゲストの話を聴くことに重点を置いている。

「授業づくりネットワーク」が2000年に設けた「**メディアリテラシー教育研究会**」（現在は日本メディアリテラシー教育推進機構とNPO法人企業教育研究会等が主催）をはじめ、「**千葉授業づくり研究会**」「**関西授業づくり研究会**」（NPO法人企業教育研究会等主催）がこの形式をとり、教育に関わる異業種交流の場となっている。

また、若い教師や教師志望の人が学ぶための場である「**明日の教室**」（藤川は「明日の教室東京分校」を運営）でも、（一般的には質疑応答・ディスカッションの時間は短いものの）メディア関係者をゲストに招くことがある。

ゲストの例：テレビ番組制作者、ゲーム制作者、PR会社社員、アナウンサー、新聞記者、レコード会社社員、ライター、リサーチ会社社員



こうした研究会の成果を、授業実践開発に活かす

クイズ番組の手法を授業に活かす

クイズ番組（「アメリカ横断ウルトラクイズ」等）の手法

テンポ、タイミングの重要性（出題→回答者が答える→正解発表→解説）
面白い問題とそうでない問題を、2：1程度に組み合わせる



授業における発問に活かす

誰でも答えられる難易度が非常に低い問いや、複雑な思考を要求する問いを組み合わせ、授業における子どもたちの思考に変化をつける

特定の「正解」を想定した発問において、「正解」発表後の解説を聞かせることを意識して、発問前後のタイミングをはかり、リハーサルを行って授業に臨む。

発問 1

このパスタの原産国はどこでしょう？

1. アメリカ
2. イタリア
3. 中国



発問 2

名越さんはどうやって実際に食べるパスタを選んだのでしょうか？

1. 地元で売れているパスタを食べた
2. とにかく売っているパスタを食べた
3. カンで選んで食べた

「食品の輸入」の授業における発問の例

教養情報番組の手法を授業に活かす

教養情報番組（「ためしてガッテン」）の手法

冒頭から説明をするより、いきなり変なことを言ったほうがまだよい
共感を喚起した上で、「でも…」と逆のことを述べる（デモジャー方式）
＜共感→「なんだろー感」→納得感→お得感＞で行動変容を促す
感情が大きく揺れたときほど、記憶が長期記憶に残りやすい
小さいことをまず受け入れさせると、別のことを受け入れやすい

今日の授業は・・・

せ○○ん

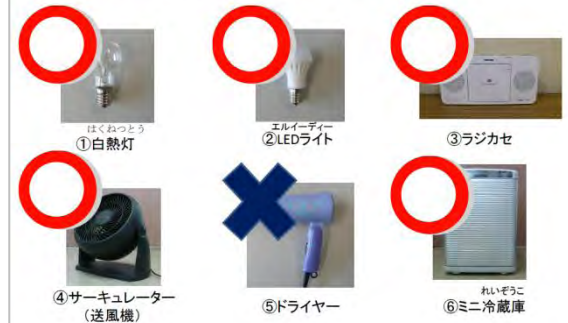
さくせん
作戦 3

エアコンとせんぷうきを 組み合わせろ！



じてんしゃ
この自転車は、しかけがあって・・・
でんき
電気をおこせるんです！

おおぐ でんきせいひん
大食する電気製品をさがせ！



授業「節電を科学する」における手法の活用

PRの手法を授業に活かす

PR (public relations) とは

組織がステイクホルダー（利害関係者）との間で良好な関係を築くことを目的としてなされる取り組み。情報発信（パブリシティ）が重要な手段となる。近年は販売戦略としての「戦略PR」が注目されている。

PRの手法

目標は、受け手にアクションを起こさせること
既成概念や思い込みといったノイズをなくし、受け手を動かす
「初期エトス」としての、外見・個性・評判・経歴・教育
「最終エトス」としての、中長期的な信頼



授業での活用

前の授業や掲示物等で予告をし、期待を高める
地域の人や校長から「正式な依頼」を受ける
授業の成果としての新聞記事や学会発表ポスターを掲示
授業の様子を学校ホームページに掲載

きんようの
そごうの
テーマは
○デ○ア

授業予告掲示の例（阿部学）↑

ゲームニクス理論を授業に活かす

ゲームニクス理論とは

プレイヤーがマニュアルを読まずにかなり複雑なことも楽しんで行えるゲームについて、その作り方の原理を理論化したもの。

ゲームニクス理論の骨子

直感的で快適なインターフェイス、マニュアル不要の操作理解、はまる演出、段階的な学習効果、バーチャルとリアルリンク

ストレスを乗り越えると快感が得られるが、無駄なストレスは与えない
序盤のうちに、多くの要素を登場させ、プレイヤーに学習させる

ゲームの中でプログラムされていることを、プレイヤーには自分で発見したと思わせる

きめ細かくフィードバックを与える



千葉市・千葉大学連携事業「西千葉子ども起業塾」での活用

企画内容が一目でわかるネーミング（小学生が起業について学ぶ私塾）

明確なミッション（商店街のイベントに貢献するビジネスを行う）とルール（物品購入手順、残業・持ち帰り仕事禁止等）

登場人物のキャラクター設定



教育方法の再構築に向けて

メディアの手法はたえず発展しており、教育方法に活用できる要素は非常に多い。教師たちの実践においては、意識的あるいは無意識にメディアの手法が活用されることは多かったと考えられる。しかし、**教育方法学の研究として、こうした活用のあり方が検討されることはあまりなかった**。メディアリテラシー研究の成果も、教育方法学研究において十分に活用されているとは言い難い。

他方、従来のメディアの手法の活用を乗り越えて、デジタル教材等のICTの活用についてはさまざまに検討されている。**ICTの活用においても、従来のメディアの手法がふまえられるべきである**。

当然、メディアの手法ではカバーできない教育方法学固有の課題は多くある。しかし、近年急激に発展しているメディアの手法を活用することによって解決可能な課題は多い。**メディアの手法の活用を基盤とした上で、教育方法学固有の課題に向かう必要がある**。メディアリテラシー研究の成果をふまえることで、教育方法学研究を再構築していく必要がある。

引用・参考文献

- 阿部学（2012）、「授業づくり」における演出の課題 「社会とつながる教員養成」に関する一観点として、社会とつながる教員養成に関する研究（千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第249集）
- サイトウ・アキヒロ（2007）、ゲームニクスとは何か 日本発、世界規準のものづくり法則、幻冬舎
- 関谷紳吾（2012）、Public Relations の考え方を取り入れた情報モラル教育のカリキュラム開発 学校内の問題解決を目的とした情報発信から、情報社会へ参画する態度を学ぶ、授業実践開発研究（千葉大学教育学部授業実践開発研究室紀要）第5巻
- 藤川大祐（編）、企業教育研究会（2004）、企業とつくる授業、教育同人社
- 藤川大祐（2011）、起業家教育の実践をどのように開発するか 「西千葉子ども起業塾」開発過程をふまえて、起業家教育に関する実践的研究（千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第237集）
- 福嶋俊（2012）、越境型カンファレンスの場のデザイン研究 「メディアリテラシー教育研究会」を題材に、社会とつながる教員養成に関する研究（千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第249集）
- 本田哲也（2009）、戦略PR 空気をつくる。世論で売る。、アスキー・メディアワークス
- 矢島尚（2006）、好かれる方法 戦略的PRの発想、新潮社